

旧北伊勢陸軍飛行場跡地をめぐり椿神社参拝

令和 8 年 9 月 19 日（土）

1. ルート 近鉄平田町駅からバス乗車＝三畑バス停～旧陸軍飛行場掩体～お龍が池～
長瀬神社～陸軍飛行場跡～椿神社～椿バス停

11.0 km (18,000 歩)

2. 参加者 市川義行・伊藤禎規・伊橋健治・太田 徹・喜吉 雄
中村軍志・中村 衛・濱田 一

8 名

3. ドキュメント

今夏も三重の地は高温にみまわれ、北勢部は雨が降らず一ヵ月半の間、干ばつとなり雨の降る地域をうらやましく思っていた。ところが降り始めると秋雨前線が居座って雨の連続、どうするここもできない天候に苛立ちさえ感じる。幸いにもこの日は晴天に恵まれて例会を実行する。暑くなりそうなことを覚悟しながら…。

近鉄鈴鹿線の平田町駅から椿神社行のコミュニティバスに乗り込み、荒神山の西に位置する三畑バス停に降り立つ。支部長の市川さんが出迎えてくれました。実は市川さんはこの地にお住まいでこの日のコースを案内していただきました。バス停を後にして旧陸軍北伊勢飛行場の跡地の名跡を見るためのコースを辿るとさつきを栽培している畑の傍を通る。この地はさつきや竜のひげなどの庭木の栽培で有名である。そのすぐのところに市川さんの邸宅があり、奥様に冷えたお茶とお菓子の接待を受ける。お庭も手入れが行き届いてきれいなところを内緒でパチリと盗撮してきた。奥様の見送りを受けて本格的に歩きはじめる。その時刻、ちょうど 10 時であった。



さつきの栽培畑



天気は良好・鈴鹿の山もすっきり



市川邸のお庭



百日紅も満開

歩き始めてすぐのところで奇妙な建造物が現れる。これが旧陸軍飛行場跡の掩体【えんたいと読む】（現在の格納庫か）と呼ばれている飛行機を隠すためのコンクリート製のものです。掩体の中にはいろいろな資材が置かれていて今は近所の農家の倉庫として使われているそうです。コンクリート製の掩体は全国で 100 個ほど残っているとのことですが三重県にはこれしかなく、文化庁の登録有形文化財になっているそうです。



旧陸軍北伊勢飛行場跡の掩体を見学

この掩体一度も使われず終戦を迎えたとのこと幸いであったのか、不幸であったのか誰も知る由がない。ただ、80 年も経った今残っていることに哀愁を感じる。三畑町から次の目的地伊船の龍ヶ池に向かう。この付近、農家の建物も少なく茶畑と植木畑の中を黙々と歩く。暑さを感じるようになり汗も滲む、1 時間近く歩いたところに泰応寺があり、休憩をさせてもらおう。数人の地元の人たちが庭の手入れに参加されていた。一息入れ水分補給をして元気な歩きを戻す。



泰応寺

東名阪自動車道の下を潜り伊船町の龍ヶ池に到達する。相当大的な農業用貯水池で湖畔には『お龍之霊碑』と記された碑が建てられていた。この池には何かの歴史がひそめられているのであろうか。



龍ヶ池とお龍さんの碑

国道から見る鈴鹿の山並み

龍ヶ池を過ぎるとすぐに国道 306 号線に入る。ここまできると入道岳などの鈴鹿の山並みが段々と大きく見えるようになる。国道を横切って旧国道を進むとコンビニがあったのでお昼の弁当を買い求める。しばらくすると長瀬神社の鳥居に辿りつき参道に入る。参道と言っても茶畑の中の畑道と呼んだ方がよいかもしれない。霜よけの送風機を設置した茶畑の中を 15 分ほど歩くと神社の境内に辿りついた。



参道入り口の鳥居

一面茶畑の参道



長瀬神社の境内

日本武尊の文字がある常夜灯

神社の前に常夜灯が一基ありました。日本武尊の文字が確認でき尊がこの地で何かをした証だと思われます。この近くには足を痛めた杖突坂、終焉を迎えた能褒野神社に伝説がまことしやかに伝わっています。

この付近が陸軍樺密匿飛行場の中心地で周囲にその痕跡が見られると市川さんが教えてくれました。鈴鹿市の東側には海軍の飛行場があったことは知られていてもこの地に陸軍の飛行場があったことを知る人は少ないであろう。

ここから樺神社までまだ4 kmほどあろうと思われるけれど歩くしかない、気温も 30℃ 近くあり風もなく、人家のない畑道を選択したばかりにペースも早くなり疲労が重なる。新名神高速道と交差するころから上り坂も強くなって相当きつく汗が噴き出てシャツがびしょりとなる。



樺神社の拝殿



雑談のひと時



神社前で記念撮影

長沢町を抜けて山本町に入ると参拝者であろう多くの車が歩く横をと通りすぎていく。13 時 15 分ごろ樺神社に到達する。歩数は 18,000 を超え、3 時間以上かかり限界を感じるウォーキングとなってしまった。参拝者は多く拝殿の前には列ができているほどであった。お詣りを済ますと境内の裏手の林の中で恒例の昼食会となる。疲れた体にはビールが美味すぎる。ゆっくりと体を休めて雑談を楽しみ、神社前からバスに乗って平田駅に向かう。思い出に残るコースの一つになるであろう。